令和2年度 第2回 門真市子ども・子育て会議 議事録

- 1、日 時：令和3年3月15日（月）午後1時～2時
- 2、場 所：門真市役所 本館2階 大会議室
- 3、出席者：合田委員長、須河内副委員長、中塚委員、勝川委員、上村委員、土川委員、熊谷委員、吉川佐希子委員、山田委員、東口委員、安井委員、吉川かおり委員、清水委員、三村委員
- 4、事務局：こども部 内田部長
こども政策課 美馬課長、楠本課長補佐、浅尾係員、古賀係員
保育幼稚園課 西川課長、大中課長補佐
- 5、傍聴者：0名
- 6、議 題：(1) 今後の会議運営について
(2) 私学助成から施設型給付への移行に伴う利用定員の設定について
(3) その他

7、議事録

(事務局)

定刻になりましたので、ただいまから令和2年度第2回門真市子ども・子育て会議を開催させていただきます。本日は、何かとご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本日の会議内容につきましては、後日、議事録を作成し、公開するため、録音させていただいております。予めご了承いただきますようお願いいたします。

ここからは、失礼ながら座って、進行をさせていただきます。

本日は、13名の委員にご出席いただいております、過半数の8名を超えておりますので、この会議が成立していることをご報告いたします。（※上村委員は会議途中から入室のため、最終的な出席者は14名）

また、本日は、傍聴者の方はおられません。

続きまして、本日の資料を確認させていただきます。

まず、資料1 門真市子ども・子育て会議 委員名簿

資料2 子ども・子育て支援新制度に基づく施設型給付

資料3 令和3年4月から新たに設定する利用定員について

資料4 令和3年4月からの利用定員の設定について（諮問）

資料5 答申書（案）となります。資料に不足がある方は事務局までお声掛けください。

それでは、まず、始めに委員に変更がありますので、ご報告させていただきます。

資料1の「門真市子ども・子育て会議委員名簿」をご覧ください。

この度、変更となりましたのは、労働者を代表する者として就任いただいている委員でござ

います。

これまでは、連合大阪守門地区協議会の推薦により林孝俊様に就任いただいておりますが、同協議会の役員変更に伴い、新たに推薦いただきました山田直毅様に令和3年2月12日付で就任いただき、本日の会議よりご参加いただいております。

山田様におかれましては、本日からよろしくお願いたします。

(山田委員)

よろしくお願いたします。

(事務局)

それでは、これ以降の会議の進行につきましては、委員長に一任したいと思います。委員長、よろしくお願いたします。

(合田委員長)

皆さん、改めまして、こんにちは。年度末に関わらず、多くのご出席ありがとうございます。それでは、議事次第に沿いまして進めたいと思います。

まず、「議題1 今後の会議運営について」、事務局より説明をお願いたします。

(事務局)

それでは、ご説明いたします。

今後の会議運営につきましては、これまで同様、子ども・子育て支援事業計画の策定や推進について、その他、子どもの育ちに関する事なども含め、ご意見をいただいきたいと考えております。

その中で、本会議における諮問と答申の取り扱いを、これまでのものから変更させていただきたいと考えております。

まず、諮問と答申についてですが、諮問とは、市長が附属機関、ここでは子ども・子育て会議のこととなります。に対して、行政執行をする上で必要な審議や調査等を求めるものです。

諮問を受けた附属機関は、求められた事項に対し、審議や調査をした上で、意見を答申としてまとめ、市長へ提出いただくこととなります。

子ども・子育て会議においては、第1期計画の策定時である平成27年10月に「子ども・子育て支援事業計画の推進」に関することについて、諮問をさせていただいております。

その内容に基づいて、これまでに複数の答申をいただいております。現在においても、5年前の諮問に対して答申をもらい続けている状態となっております。

事務局としましては、文書管理の観点等から、今後は1回の諮問に対し1回の答申をいただく形へと変えさせていただきたいと考えております。

説明は以上でございます。

(合田委員長)

ありがとうございました。

ただいま、諮問と答申の取り扱いを見直すことについて事務局より説明がありました。

内容としましては、「計画の推進について、これまでは、過去に1回提出された諮問に対して、複数回、答申をしていましたが、今後は1回の諮問に対し、1回の答申とする形へ変更してもよいか」というものでした。

説明された内容について、何かご意見等はございますでしょうか。

ある方は挙手にてお願いいたします。

東口委員、どうぞ。

(東口委員)

他市でもあるように一般的な形に揃えられるようですので、それでよろしいかと思えます。

(合田委員)

ありがとうございました。

他に何か意見がありましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。

東口委員からは、おっしゃっていただいたとおり、他市に倣う形であれば賛成との意見でした。

他、特に反対の意見もありませんでしたので、今後、諮問と答申の取り扱いについては、事務局からの説明のとおりとするということによろしいでしょうか。

(委員全員)

同意。

(合田委員長)

ありがとうございました。

それでは、今後、事務局においても、そのように取り扱うようお願いいたします。

続きまして、議題2「私学助成から施設型給付への移行に伴う利用定員の設定について」、事

務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、ご説明いたします。

現在、市内の私立幼稚園 1 園より令和 3 年 4 月に私学助成から施設型給付への移行の申し出を受けておりますので、利用定員の設定について皆様にお諮りさせていただきます。

まずは、施設型給付や利用定員についてご説明させていただきます。

これまでの会議で説明した内容と重複する部分がございますが、ご了承ください。

それでは、資料 2 をご覧ください。

この資料は、利用定員の設定に関する「子ども・子育て支援新制度に基づく施設型給付」についての説明資料となっております。

まず、この子ども・子育て支援新制度に基づく給付とは、認定こども園や保育所などの施設へ自治体が財政措置をするものでございます。

新制度が施行される前は、施設形態ごとに異なる制度により財政措置がされていましたが、新制度の施行により制度が共通化されました。

資料、中ほどの図を見ていただくと、新制度の施行前は施設形態により、都道府県からの私学助成、市町村からの保育所運営費負担金等、異なる実施主体により財政措置がされていましたが、新制度施行後は市町村からの「施設型給付」に共通化されております。

新制度の施行後は、いずれの施設も施設型給付へ移行することを原則としておりますが、例外として私立幼稚園については、申し出により私学助成を継続して受けることができることとなっております。

次に、資料下段の「施設型給付を受けるには」をご覧ください。

新制度による給付の対象となるためには「認可」を受けた施設が、「確認」を受ける必要がございます。

まず、「認可」とは、各施設形態の認可権者が定める施設の設備や運営体制を満たすことにより認可施設として認められるもので、この「認可」を受けていない施設は、所謂、認可外の施設となります。

「認可」を受けた施設は、施設型給付の実施主体である本市に申請をいただき、「確認」を受けることで、施設型給付を受けることができますようになります。

本市における「確認」の手続きにつきましては、大きく分けて2つございます。

1つ目が、「基準を満たしているかの確認」で、本市の条例で定める基準を満たしているかを施設からの提出書類等により確認するものでございます。

2つ目が、利用定員の設定です。

利用定員とは、施設の認可の際に設定されている認可定員の範囲内の人数で設定するもので、設定の際は子ども・子育て支援法の定めに基づき、子ども・子育て会議で意見をいただくこととなっております。

申請をいただいた施設は、この2つの手続きにより、施設型給付を受けることができるようになります。

続けて、資料裏面の「利用定員の設定と子ども・子育て会議について」をご覧ください。こちらは、利用定員の設定について、皆様にお諮りしている根拠を示しております。

子ども・子育て支援法では第31条第2項、第43条第2項にて、利用定員を設定する際は、審議会その他の合議制の機関などの意見を聴かなければならないと定めております。

詳しくは、子ども・子育て支援法の抜粋部分をご確認いただきたいのですが、いずれの条文も「利用定員を定めようとするときは、あらかじめ、第77条の第1項の審議会その他の合議制の機関を設置している場合にあってはその意見を、その他の場合にあっては子どもの保護者その他子ども・子育て支援に係る当事者の意見を聴かなければならない。」とされております。

本市においては、門真市子ども・子育て会議が「第77条第1項の審議会その他の合議制の機関」に当たるため、皆様に利用定員の設定について諮らせていただいております。

それでは、本題となります、「利用定員の設定について」ご説明いたします。資料3をご覧ください。

現在、私立幼稚園1園より確認申請が提出されております。

申請されているのは門真市南部地域の三ツ島にあります「大阪ひがし幼稚園」で、昭和42年に大阪府の認可を受けて運営されている幼稚園でございます。

設置主体は「学校法人 大阪東学園」で、市内で大阪ひがし幼稚園の他、小規模保育施設の「まめっこくらぶ」と「まめっこ」の2施設を運営されております。

これまでは、従来の制度である私学助成により財政措置を受けておりましたが、法人において今後の施設運営を考慮された結果、令和3年4月1日より、子ども・子育て支援新制度によ

る施設型給付を受けることを希望されております。

2の「令和3年4月から新たに設定する利用定員」の表を見ていただくと、施設の認可定員は490人で、内訳はすべて1号認定となっております。

そのため、設定する利用定員につきましても、認可定員と同様に490人とし、すべて1号認定として考えております。

このことにつきまして、皆様に諮問させていただきます。
諮問内容につきましては、資料4をご覧ください。

表題を「令和3年4月からの利用定員の設定について」としており、お諮りする内容につきましては「子ども・子育て支援法第31条に基づき、令和3年4月から新たに設定する利用定員に関し、貴会議の意見を求めます。」とさせていただきます。

皆様には、この内容でお諮りさせていただき、後に答申をいただきたく思います。答申については、後ほど説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

(合田委員長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局より利用定員の設定についての説明があり、合わせて諮問されました。

内容としましては、「大阪ひがし幼稚園が私学助成から新制度の施設型給付へ移行するにあたり、現在の認可定員数と同じ490人で利用定員を設定してよいか」というものです。

このことについて、皆様から、ご意見やご質問はありますでしょうか。

ありましたら、挙手にてお願いいたします。

東口委員、どうぞ。

(東口委員)

私学助成の幼稚園が施設型給付になるということですが、要は、一昨年10月から実施された幼児教育の無償化、これが私学助成においては非常に煩雑な手続きが必要となっております。

おそらく、施設型給付になった方が利用者にとっても楽なのじゃないかと思っておりますので、この案でよろしいかと思っております。

(合田委員長)

ありがとうございました。

他、いかがでしょうか。

(勝川委員)

私からも、異議はありません。

(合田委員長)

ありがとうございます。

質問等を含めてもけっこうですけれども、よろしいでしょうか。

それでは、ご意見として、東口委員からこの案でいいのではないかとありました。

他、皆様方からも特に意見はないということなので、先ほど、事務局より説明いただいたとおり、大阪ひがし幼稚園の利用定員を設定するということによろしいでしょうか。

(委員全員)

同意。

(合田委員長)

ありがとうございました。そのような形とさせていただきたいと思います。

それでは、ただいまの審議を踏まえて、答申の内容を定めていきたいと思います。

まずは、事務局より答申についての説明をお願いします。

(事務局)

それでは、ご説明いたします。

本日お諮りした内容につきまして、皆様のご審議を踏まえての答申をいただきたく思います。

答申書の案をご用意しておりますので、資料5をご覧ください。

表題としましては、本日の会議でお諮りした「令和3年4月からの利用定員の設定について」として、「記」から下の部分に、それに対する答申として、一旦は「令和3年4月から新たに設定する利用定員については、事務局案を相当と認める。」と記載させていただいております。

答申の文面については、あくまで仮のものでありますので、皆様のご審議により内容を固めていただきますようお願いいたします。

説明は以上でございます。

(合田委員長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局より答申書の案が示されました。

案には、仮の文面として、「令和3（2021）年4月より新たに設定する利用定員については、事務局案を相当と認める。」と記載されておりますが、この内容について修正等のご意見がありましたらよろしくお願いたします。

いかがでしょうか。この事務局案でよろしいでしょうか。付け加えや修正がありましたらお願いします。

（東口委員）

これは、事務局案なのでしょうか。申請のとおりと言いますか、そういうものではないのかなと疑問なのですが。

（事務局）

事務局としましては、会議としての答申書をご提出いただくものとしていまして、一旦、このような形で事務局として文書を作らせていただいております。

内容がこれで良いのであれば、そのようにしていただければと思います。

（合田委員長）

「事務局案」という表現はということですよ。

（東口委員）

はい。あまり見ない表現だと思ひまして。

（合田委員長）

この子ども・子育て会議の中で審議して決めた方がよいのか。それとも、このまま、事務局案のまま文言を出すかというのは、またご相談させていただくということでもいいのでしょうか。

（事務局）

そうですね。この内容でよろしいのであれば、会議の中で決定していただければと思います。

（合田委員長）

おそらく、東口委員は、「事務局案」という表記をあまり見かけないとおっしゃっていると思いますので、言葉の訂正といひますか、適切な表現へと変えた方がよいということではないでしょうか。

(事務局)

そういうことですね。

(合田委員長)

また、事務局の方で考えていただくということでよろしいでしょうか。

(事務局)

かしこまりました。

できましたら、修正につきましては、委員長と事務局とで調整したうえで、訂正ということで皆様にご了解をいただければと思います。

(合田委員長)

よろしいでしょうか。

(東口委員)

内容については、これで良いかと思いますので、表現だけ修正してもらえればと。

(合田委員長)

それでは、文言だけ修正させていただくことにします。

他の方は、大丈夫でしょうか。

それでは、答申書の内容を定めたいと思います。

内容については特に変更はありませんが、「事務局案」という表現だけ修正することでご了承いただいたものとさせていただき、資料で示された内容を修正した上で、答申という形としたいと思います。

続きまして、「議題3 その他」に進みたいと思います。

事務局から報告等はございますでしょうか。

(事務局)

事務局からの報告等は特にございません。

(合田委員長)

分かりました。事務局からは特にないということで、委員の皆様からは何かございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、以上をもちまして、「令和2年度第2回門真市子ども・子育て会議」を終了いたします。

(以 上)